

文部科学省初等中等教育局長 殿

全国連合小学校長会長 大字 弘一郎

「オミクロン株」による感染拡大に伴う小学校の教育活動を維持するための緊急要望

今年1月からの新型コロナウイルス「オミクロン株」による急激な感染拡大の影響を受け、学校における教育活動に支障がでてきております。今回の「オミクロン株」の感染では、デルタ株とは違い、感染者の10代以下の割合が全体の4分の1と言われております。そのことから、学校においても児童の感染者や濃厚接触者の急増により、学級閉鎖や臨時休校の措置を取らざるを得ない学校が多くなっています。加えて、教職員自身も感染したり自身の関係者が感染したりして出勤できなくなる教職員が増えてきています。このような状況の中、各学校においては、子どもたちの成長と安全を願い、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぎ、少しでもよりよい学習環境の中で子どもたちが学習を行えるよう最善を尽くしております。

しかしながら、このままでは、学校での教育活動が維持できなくなる危機的な状況になると言っても過言ではありません。至急の対策が求められますが、各学校や自治体での対応には限界があり、国としての全国的な支援が必要と受け止めております。

すでに、文科省初中局関係課より、「オミクロン株」に対応した学校における感染対策の徹底（2月4日付）、教職員の新型コロナワクチンの追加接種について（2月7日付）の通知を發出していただいておりますが、このような状況を踏まえ、全国連合小学校長会では、以下の3点に絞って緊急の要望をいたします。貴職におかれましては、新型コロナウイルス感染「オミクロン株」から子どもたちや教職員を守り、よりよい教育環境の下で学習保障に努めている学校の取組についてご理解をいただき、格段のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

記**1 早急に、スクールサポートスタッフ等人的な支援を図られたい。**

教職員自身の感染や自身の関係者の感染により濃厚接触者となり出勤できない教職員が増えてきています。そのため、当該校では補教等の対応が回らなくなっている状況が見られます。さらに、感染防止対策の徹底、児童の濃厚接触者としての判断、学級閉鎖等への対応、オンライン授業に向けた準備等による業務の増大により、校長をはじめ教職員の心身両面への負担はかなりのものがあります。早急に、臨時的教員等の緊急配備やスクールサポートスタッフ等の配置拡充に係る教育委員会への働きかけと費用負担等の支援をお願いいたします。

2 エssenシャルワーカーとして、3回目のワクチン接種の早期実現を図られたい。

日々、子どもたちと接している教職員は医療従事者や高齢者・障がい者施設従事者と同様に、必要不可欠な職務従事者です。自治体によっては、すでに教職員のワクチン接種を優先的に実施している自治体もありますが、準備中の自治体も多くワクチン接種について“自治体間格差”が生じる可能性もあります。教職員の業務内容等に鑑み、全国で教職員の3回目のワクチン接種を早期に実現する体制構築をお願いいたします。

3 教職員のPCR検査及び定期的な抗原定性検査の実施について支援を図られたい。

教職員が発熱した場合に、病院での受診やPCR検査を受けられないといった状況があります。教職員は、日々、自身から子どもたちに感染させないよう最善の努力を重ねており、このような状況に不安を募っています。教職員が安全・安心に職務に専念できるよう、日本医師会等の関係機関と連携し、学校医等で優先的にPCR検査を受けられるような体制を構築していただくとともに学校で教職員が定期的に「抗原定性検査」ができるよう抗原キット等の全国の学校への配布等の支援をお願いいたします。